

【Datum ワークステーション】最近接のポイント 5 点を求める SML

処理の解説

＜実行前の準備＞

実行する前に、C ディスクにワークファイル用として sml というフォルダーを作っておきます。

＜実行方法＞

実行したら、以下のようにファイルを選択、指定します。

- ・最初に、Vref を聞いてくるので、基準となる観測点(グリッドポイントなど)のベクタを選択します。
- ・次に、Vin を聞いてくるので、そこまでの距離を求めるランダム点を選択します。
- ・次に、Vout (出力ベクター)を聞いてきますので、新規 RVC、ベクタを指定します。
- ・次に、Cout を聞いてきますので、先ほどの新規 RVC ファイルの中に Cout を作ります。

以上で、計算を開始します。

＜結果の図＞

- 図 1. 計算の元になったグリッド点とランダム点。
- 図 2. 本 SML により作成された、各観測点と最近接 5 点を結ぶライン、5 点目を通る円を重ねて表示したもの。
- 図 3. 図 2 の拡大。

＜SML の出力＞

観測点毎の 5 本の線と円図形が出力される。

図 1. 計算の元になったグリッド点とランダム点。

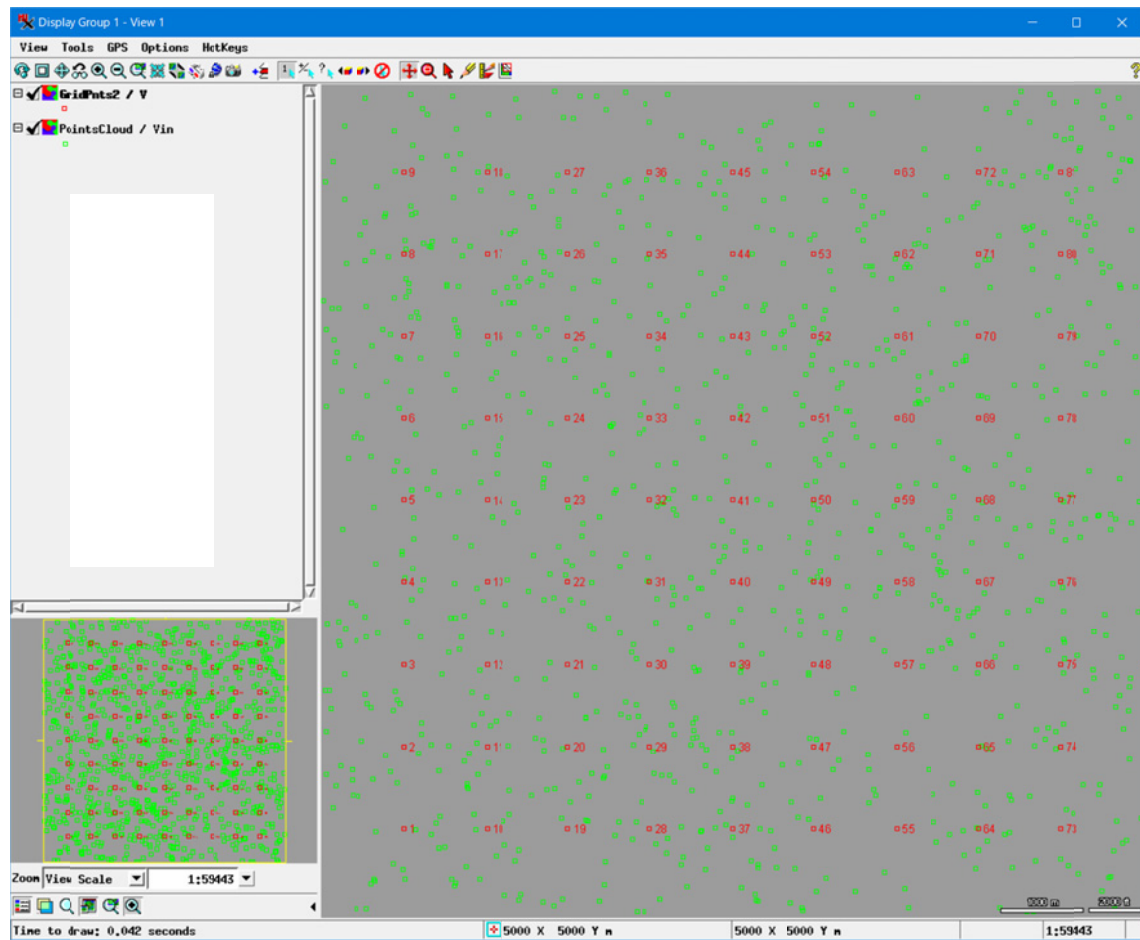


図 2. SML により作成された、各観測点と最近接 5 点を結ぶライン、
5 点目を通る円を重ねて表示。

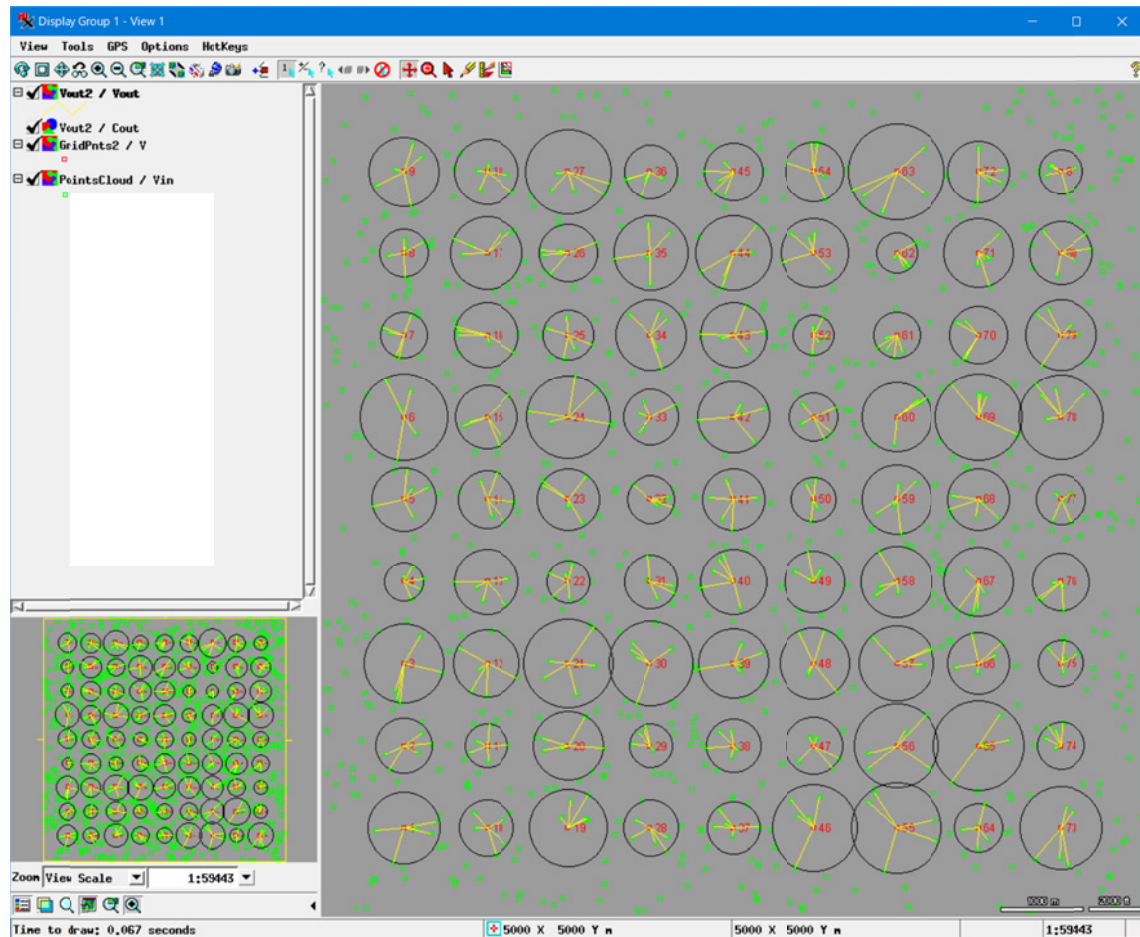
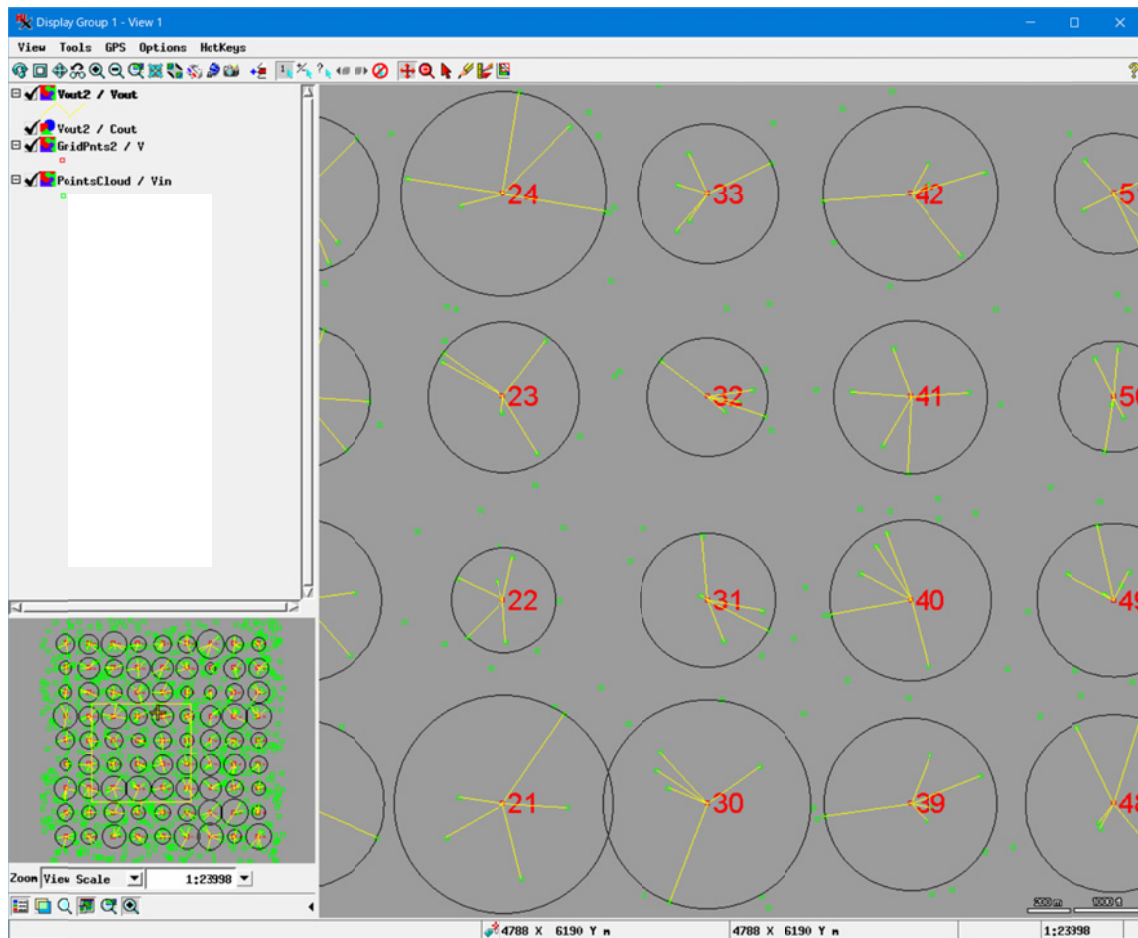


図 3. 図 2 の拡大。



(2023.5.2, OpenGIS, Datum WS を使用)